

未来に責任を果たし、次世代へ誇れる高槻を。

少子高齢化と人口減少、支える世代と支えを必要とする世代の人口のアンバランス。現在日本全体が抱える課題は、高槻市にあっても最大の課題です。その中で求められているのが「地方創生」です。子育てや雇用など魅力あるまちづくりを進める一方で、財政問題や都市間競争という難しい状況にも直面しています。誇れる高槻を次世代に繋ぐために、**今こそ将来起こりえる厳しい現実を直視し、未来を見据えた取り組みが必要です。**私たち自民党・蒼政会は、これからのあるべき政策を問いながら、高槻の未来に責任を果たして参ります。

Check!

3人で精力的に活動中！
皆さんの声をお聞かせください！



私達は、高槻市議会で「自民党・蒼政会」議員団として活動しています。政治上の主義・目的などを共有し、政策について研究や議論を深め、高槻市政に反映していきます。未来の子供たちが誇れる高槻の実現のためにも、市民の皆さんの声をお聞かせください！

田村規子 / 真鍋宗一郎 / 竹中健

代表質問

市長の施政方針に対して、自民党・蒼政会から代表質問を行ないました。子育て・教育施策を中心に、都市政策や行財政改革など全20項目の内容です。

子供の放課後の居場所として、校庭を開放し体力と子育て力を。

現在、子供達が外で安心して自由に遊べる場がない状況が、体力の低下を招く一因となっています。子供の体力向上のため、また子供が自ら考え育つ「子育て力」を育むために、**親子ともに安心・安全な環境である「小学校の校庭を開放すること」が現実的かつ効果的ではないかと提案しました。**市長からは「小学校の校庭開放の取り組みには参加者の把握や安全確保などが課題となることから、見守りや安全確保の方策を含めて研究する」との答弁が。しかし、**すでに他市では校庭開放を実現している**のです。子供達が安心して安全に過ごせる空間作りのために、引き続き責任をもって提案して参ります。

<その他の項目>

- 「3世代で住みやすいまちづくり」について
- 潜在的な待機児童の解消について
- 訪問型病児・病後児保育の実施について

- 魅力ある富田地区のまちづくりについて
- 小中一貫教育の今後の取り組みについて
- ホテル誘致条例の今後の活かし方について

- 水害・土砂災害ハザードマップの活用について
- 本市の今後の広域連携のあり方について

etc...

本市の観光資源を活かし、相互に連携する体制の確立を。

観光施策は、市が一丸となって推し進めなければなりません。摂津峡・三好山といった「自然」、高山右近・今城塚古墳などの「歴史」、うどんギョーザや寒天などの「食べ物」、高槻ジャズストリートや高槻まつりといった「イベント」など、**本市に既に存在する観光資源を活かすため、相互に連携する体制の確立を求めました。**答弁では「市外に誇れる資源を本市ならではの体験・交流型の観光プログラムとして活用する。また、観光環境基盤の整備を図り、産業振興にもつながるすそ野の広い連携体制を構築していく」とありました。今後も本市の活性化に向けて、「行ってみたいまち」を目指して、提案を続けていきます。

未来を見据えた市政運営を。 今から、責任をもって着実に。

(田村規子)

「20年後の高槻を守るための市政運営について」をテーマに、人口ビジョンと公共施設の更新にかかる費用に関して質問をしました。人口は、**20年後には約3万7千人、45年後には約11万人減少する推計**なので、人口減少に対応したまちづくりのため立地適正化計画などを策定すること。道路などのインフラを含む公共施設の更新には、これから**40年間の試算**

では約4,700億円の費用がかかるので、公共施設のあり方を見直し、売却や貸し付けも視野に入れていくとのこと。私からは、これからの財政の危機感を市民の方にも知ってもらうことを要望しました。そして、平成28年の年頭に**濱田市長は「みらいのための経営革新宣言」を発し、政策の具体的な検討を全庁に指示**されました。この取り組みを注視し、議論していきます。

「高槻35万5千総活躍社会」のために、 インバウンド対策として「民泊」の推進を。

(真鍋宗一郎)

一人ひとりが活躍できる社会の基盤となる本市の活性化と税収増のため、交流人口を増やす観光がますます重要になります。**活性化の要因となるインバウンドを本市の経済効果につなげるポイント**は「**宿泊**」です。インバウンドの長い滞在日数と本市の強みである利便性を活かすため、また宿泊施設不足の解消のため、「民泊」の推進を提案しました。旅行者が訪れる活気ある

まちを目指す一方、**近隣の皆様への配慮や安心安全の確保も重要**ですので、**本市も民泊条例を制定すべき**です。市の答弁として「民泊について大阪府が条例を制定したことや、国も規制緩和に向け検討していることから、需要状況や他市の動向を注視し、関係機関等と連携しながら研究を進める」とありました。今後も民泊実現にむけて取り組んでいきます。

安心して子育てができる環境のために、 訪問型の病児・病後児保育の実施を。

(竹中健)

現在高槻では、病児保育は未実施で、病後児保育は施設型で4箇所にて実施しています。しかし、**施設型は地域的な制約を受けやすく、保護者の利用しやすさに地域格差が生じる**ため、保護者のニーズとは合っていない。そこで、各家庭への訪問型の病児・病後児保育の実施を提案しましたが、答弁では「運営面での基準などの安全面での課題がある」ため「研究していく」

とのこと。しかし、大阪市や東京都の文京区などではすでに訪問型の病児・病後児保育を実施しています。どうしても仕事を休むことができず、子育てと仕事の両立に苦労されているたくさんの保護者がおられるのが現状です。**行政にとっての重要な責任の1つは、選択肢の提供**です。だからこそ、高槻でも施設型とあわせて訪問型も実施できるように、今後も提案していきます。

◆ 市政に関するご意見や日々のお悩みをお寄せください！ 下記の連絡先までお気軽にどうぞ！

田村規子 (たむらのりこ)

高槻市議会議員 2期目
文教市民常任委員会 委員長
新名神・交通体系等対策特別委員会

☎ 072-684-2220
✉ takatsuki@taratta.com
🌐 <http://www.taratta.com>

真鍋宗一郎 (まなべそういちろう)

高槻市議会議員 1期目
都市環境常任委員会
史跡整備等特別委員会

☎ 072-661-9077
✉ manabe@0726.info
🌐 <http://www.s-manabe.com/>

竹中健 (たけなかけん)

高槻市議会議員 1期目
福祉企業常任委員会
市街地整備促進特別委員会

☎ 070-5508-9243
✉ mail@takenakaken.net
🌐 <http://takenakaken.net>